

「情報の窓」

逆瀬川 浩孝

今年5月からあらたに編集理事を仰せつかり、「オペレーションズ・リサーチ」の編集を担当することになりました。

「オペレーションズ・リサーチ」(以後、OR誌と書きます)は日本OR学会の機関誌であることは言うまでもありませんが、同時に日本で市販されている唯一のオペレーションズリサーチ専門誌でもあります。実際、少なからぬ部数が機関・個人に購入され、読まれています。さらに機関購入分と、賛助会員に配布される分については不特定多数の一般読者の目に触れている可能性があります。どのような紙面を作ればよいかということを考えるときに、常にこのことを念頭に置いておく必要があります。

当面は3つの柱を立てて、充実した紙面作りを目指しつつあります。1つは情報誌的な面を強化すること、2つは読みやすい記事を提供すること、3つは事例研究発表を積極的にサポートすること、です。

先日の編集委員会企画会議でOR誌の在り方に関するブレインストーミングをしましたが、編集委員がOR誌に対して共通に求めるものは情報であるということになりました。おそらく共感を覚える読者も多いことでしょう。これ1冊みればORの活動がわかる、となるまでにはかなりの道のりがありますが、努力します。そのために新たなコラム「情報の窓」を新設しました。読者の関心がある各種集会の案内や報告などは紙面の許す限り掲載するつもりです。そのためには読者の方々のご協力が不可欠です。あんな集会がある、こんな集会に行ってきたらこういう面白い話しが聞けた、××のテーマに関する研究グループがあります、これから作ります、こんな本を読んだら面白かった、というような情報を、編集委員会にお寄せください(くわしくは447頁の記事をご参照ください)。また速報的な情報については試験的に「日本OR学会メイリングリスト」(詳細は6号330頁参照)の併用を考えています。アドレスを持ちながらまだリストに登録されていない方が多いと思われます。この際、加入登録されてはいかがでしょうかでしょう。

OR誌は読むところがなくて面白くない、という声はかなり聞こえてきます。ORが使われて成功している事例とか、未開拓だけれどチャレンジングな問題など、その時々で読者が興味を持ってそうなテーマを選んで巻頭特集を組んでいるのですが、専門分化して、毎日の業務/研究に忙しい読者にはなかなか目を向けてもらえないようです。また、著者の方々も一般読者というよりは専門家を想定してかなり密度の高い論文を書かれる、という傾向があったように思います。これからは著者の方々にもお願いして、気楽に読める記事を増やしますので、仕事の手を休めて覗いてみてください。2年前から増えはじめた連載講座は好評のようですので、これからも充実させるつもりです。また、特集、連載講座以外にも、時々のトピックスを解説したもの、人物紹介、企業・研究所訪問記、など、読みもの的な記事を随時とり上げて、読者の目が向くようなものにします。

今月号は毎月巻頭を飾る特集がありません。学会員の研究成果の一端である投稿論文(審査付き)を集めました。ご承知のように、日本OR学会にはもう1つJournal of the Operations Research Society of Japanという投稿論文を集めた雑誌(論文誌)がありますが、その掲載論文はともすれば理論的な成果に偏り、適用事例に関する論文がなかなか公表されません。OR誌は応用を主眼とした研究論文を掲載します。研究論文ですから掲載にあたっては審査が必要ですが、その審査基準は論文誌のそれほど厳格なものではなく、ある程度の創造性が認められれば積極的に評価します。くわしくは430頁の論文募集案内をご覧ください。学会の水準を維持し前進を続けるために、多くの方々の投稿を期待します。

OR誌の成否は読者の積極的な参加が得られるか否かにかかっています。読後の感想、自薦を含めた特集・講座・読み物の提案、などご意見を電子メールまたはファックスでお寄せください。

電子メールアドレスcorsj@sakasega.mgmt.waseda.ac.jp、ファックス03-3208-8373